

令和5年度白糠町教育委員会活動状況に関する点検評価報告の評価コメント

北海道教育大学副学長 玉井康之

第1に、白糠町では、いじめ防止活動においても、白糠町高校生をファシリテーターとしていじめ防止に向けた「子ども会議」を開催するなど、子ども自身に自分たちの生き方や人間関係を自主的に考えさせる取組を進めていることである。このような自主的・自立的な活動は、あらゆる自立的な生き方を高める教育活動の条件となる。

第2に、白糠町が伝統的に取り組んできた「ふるさと教育」を教育活動の重要な柱として推進していることである。具体的には、食の教育としてのふるさと給食や総合的な学習活動を中心としたふるさと学習など、地域資源を素材にして地域を探究し、地域を誇りに思う活動を推進している。これは、子ども達の自信と誇りを培うことにつながり、そのことがあらゆる活動において、子ども達が能動的に取り組む生きる力の基礎を培う条件となる。

第3に、英語・中国語など、多様な言語を通じて国際的な感覚を高める活動を積極的に推進していることである。外国の言語・文化を学ぶことによって、相対的に日本語力の水準を高めることの重要性や地域文化の良さを捉え直すことに繋がっている。

第4に、芸術文化活動や郷土芸能・アイヌ文化理解活動も推進し、経済活動だけではない精神文化や伝統を見直す取組を進めていることである。その地域の芸術・文化を子ども達にも出前講座や展示会を行いながら普及している。芸術・文化は、経済生活とは区別して、精神生活を豊かにするもので、地域づくりの一つの柱となる条件となるものである。

第5に、白糠町の体育館を改修するなど、体力づくり・スポーツづくりの環境を整備し、体力・健康づくりの条件を広げていることである。体力づくりは、忍耐力・持続力を高める基盤となり、自律神経や交感神経を高め意欲的に行動できる条件となる。また免疫力を高め、健康づくりと病気予防の条件となる。身体を鍛えることと精神を鍛えることは、軌を一にするものであり、その両面を重視していることは、将来的に長寿社会を支える条件ともなる。

第6に、北海道教育大学釧路校との連携活動は、附属学校の出前講義や義務教育学校の情報交換、学生の実践経験とその長期的なサイクルによる人材育成などの成果が現れている。大学では理論的な学習活動に加えて、白糠町を含めた学校現場の実践的な内容を取り入れることによって、大学にとっても有益な教育水準を高めている。同時にその大学の知見は学校現場にも還元されるもので、教師力や学校力を高めていく条件となっている。

以上の白糠町の教育活動の特色は、子どもの教育活動や社会教育活動を高める条件となっており、さらに長期的には地域づくりの条件になるものとして評価できる。